

症例報告—E.S.K. の軌跡 (5) 上顎右側第一大臼歯抜歯の犬歯部開咬症例

Clinical Management

歯科医療と口腔外科：口腔がんを中心に—2
慢性炎症と口腔がん

Clinical Orthodontics

Dr. 澤田のCase Study—8
歯科矯正用アンカースクリューを
利用した永久歯の一期治療
—歯槽性上下顎前突の非抜歯治療6症例

Clinical Report

補綴前処置としての矯正歯科治療
多数歯に不適合補綴装置が
装着されていたAngle Class III症例

Hygiene Work

DHのための矯正臨床マニュアル—3
資料採得 (口腔内・顔面規格写真)—1



Clinical Report

(臨床報告)

補綴前処置としての矯正歯科治療

多数歯に不適合補綴装置が装着 されていた Angle Class III 症例

川里邦夫 (あわさと歯科・矯正歯科 大阪市北区)

はじめに

歯の位置が不正であると、修復治療で高い到達点に達することはかなり難しくなる。よって、矯正歯科治療により無理なく修復治療の行える状態にまで歯の位置をコントロールしておくことが重要である¹⁾。

本症例は、歯生と多数歯に不適合充填物・補綴装置がされた成人男性の Angle Class III 症例を、歯肉組織の改善を行い、修復補綴歯科治療を併用して、

上顎はラビアル、下顎はリンガルのハーフリングルによる矯正歯科治療を行い、良好な咬合が得られたので報告する(図1~8、表1)。

症例の概要

治療開始年齢は38歳4カ月で、上下の歯槽の叢生と交叉咬合を主訴に来院した。全身所見に特記事項は認められなかった。顔貌では、正貌は下顎が左側へ偏位していた。歯槽はオトガイの突出を伴う下顎



図1 初診時の顔貌および口腔内写真(38歳4カ月)